

# IUHW

35号

The gazette of International University of Health and Welfare

秋の国際医療福祉大学に風花が舞う

大学院



風花祭



TAO



今年は構内に  
秋桜が咲きました。



特集

第5回 風花祭

インタビューシリーズTAOプロジェクトメンバーに伺う

国際医療福祉大学大学院特集 大学院の「いま」



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成12年12月1日

編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116

ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>

# 第5回 風花祭

Kazahaza-sai

秋の大きなイベント「風花祭」が、10月28日（土）と29日（日）の2日間にわたって開催されました。多くの出店や催しがあり、たくさんの方が楽しい時を過ごしました。学生の皆さんは、この風花祭のために、毎日夜遅くまで練習や打ち合わせをしていたようです。日曜日の昼は生憎の雨模様でしたが、最後は打ち上げ花火で大成功！当日のスナップや皆さんの声を紹介します。

社会福祉研究部「あじさいのフリーマーケット」の他にも沢山の出店があり、近隣の方々もたくさん買い物をしていました。



チアリーディング PANTHERS  
日頃の練習の成果を發揮し高度な技が今年もステージを盛り上げました。



柱である、緩和ケア緩和ケア（緩和ケア）に対する治療法と「こころのケア」について、多面的に詳しく解説されました。最後にがんを防ぐための十二ヶ条の話が聞け、この講演を通して日本のがんを取りまく様々な考えや現状を知ることができました。



教育後援会記念講演から

教育後援会記念講演が二八日午後一時より開催されました。今回は、本学看護学科教授の渡辺孝子氏より、「がん患者が尊厳ある生を全うするために」というテーマで約一時間の講演がありました。講演の中では、生を受けた者は誰もが死に向かっている中で、生を受けることを踏まえ、各人が限りある生を自分らしく全うすることの大切さを最初に話されました。その後、我が国の平均寿命の変化とがん死亡者の増加傾向についてや治療困難な患者さんへの医療現場でのスタンスと医療内容がわかりやすく解説されました。特にがん医療の場合、WHOのがん専門委員会が一九八六年に公表したがん対策の第四の門（緩和ケア）に焦点をあて、がんの痛みやそれに



人形劇「CHAP」公演風景  
演題は「因幡の白ウサギ」です。子ども達も楽しんでいました。



カフェテリアでは熱いライブが繰り広げられていました。

箏曲サークル「胡桃の会」演奏会  
優雅な琴と三味線の調べに、聴衆もしばし時を忘れていたようでした。



E.S.S.の英語劇「オズの魔法使い」  
会場には外国人のお客さんもたくさんいました。

風花祭では入試説明会も行われました。教職員の説明に受験生も真剣に聞き入っていました。



29日の昼は、あいにくの雨にもかかわらず野外の出店は盛況でした。



茶道部ではお茶とお菓子と優雅なひとときを演出していました。

## 学科の活動 言語聴覚障害学科の活動



鈴木 陸さん(言語3年)

言語聴覚障害学科では様々な検査機器を使った催しがありました。ST3年の鈴木陸さんにお話を聞きました。

「この度は聴力検査・補聴器体験、音声コンテストなどを行っています。大声コンテストなどは始めは恥ずかしがっていた人も、実際にコンテストが始まると日頃の鬱憤を晴らすかのように大声を出され高得点を出した方もいました。言語聴覚士の事はまだ広く知られてはいないので、地域の方に来て体験していただくことでSTのことを知って帰っていただけたことがすごく良かったと思います。」



## 作業療法学科二年有志による啓蒙活動

「この催しはクラス全体で協力しあって学園祭に参加したいという声が高まり実現したもので、その目的は『OT学生自身を含め』作業体験を通して作業をする（この楽しさを味わうこと）、また『この体験や展示品等を通して、地域の方や他学科生に、作業療法』とは何か興味関心をもって貰うきっかけをつくりたい』という二つでした。」



この活動を通して、新しい発見やさまざまな体験が得られました。その一部をお話すると、『OTの啓蒙活動に繋がった』、『クラスの団結・相互理解になった』、『協力や企画立案実施を通し充実・達成感を味わえ今後の自信に繋がりました』、『販売やOTの説明を通し他者への分かり易い説明方法の難しさ・接遇の大切さを実感した』、『人手不足等で販売作品や準備に手間取り苦労した』、『等といったものでした。また、学年・学科別にとつた『作業療法に関するアンケート』から、他学科生から見た作業療法のイメージを知ることができたり、学年を重ねることによりOT学生の作業療法に対する知識や理解の深まりを見て取れたことも大きな収穫のひとつかと思えます。また県内の他の作業療法士養成校とも交流がもてました。」



## 医療福祉学科の活動

医療福祉学科のインスタントシアター(擬似高齢者)体験では子どもからお年寄りまで様々な方がゴーグルやおもりを身につけて体の不自由な「高齢者」を体験していました。



カフェテリアで行われた吹奏楽部の演奏会はお客さんも真剣に聞き入っていました。



ハンドベル部の美しい音色に子どもからお年寄りまでたくさんの方々が耳を傾けていました。

## 舞台発表後の声

風花祭では様々な部・サークルが日頃の成果を発表をしていました。今回は少林寺拳法部の鈴木慎吾さんと手話サークル「メビウス」の福祉二年・萩原由希子さんに発表の出来について聞いてみました。

「正直言って昇段試験や大会、実習などが重なってしまい、満足な練習ができず、完成度は十分ではないですが、何より皆と力を合わせて演武できたことは良かったと思います。」

### 手話サークル「メビウス」

(萩原由希予さん)

練習が最後まで充分にできず、前日も遅くまで練習したことは大変でした。でも予想以上にお客さんが来てくれて、子供から大人まで喜んでもらえたことが良かったですね。

私たちは週二回サークルの時に聾者の方に来てもらって交流会や手話を教えてもらっています。



## 会場のお客さんに

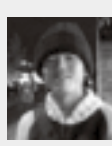
風花祭にいらっしやったお客さんに今回の学園祭について一言いただきました。



第1回目から学園祭に来ていますが、少しずつサークルが活発になり充実してきた感じがしますね。でも、会場がいっぱいでまだちょっとわかりづらい所があります。毎年ハンドベルと吹奏楽部を楽しみに来ているんですが、できればもう少し静かなところでゆつたりと聞きたいです。今年は障害者コーナーを体験しましたが思った以上に足腰が弱ると大変なんだなあと感じました。(吉田さん)



今回が2回目なんですが、今回はよく見られました。喫茶室でコーヒーを飲んだり、ケーキをいただいたり、看護学科の学生さんに血圧を測ってもらったり、生き生きとして楽しそうに学生さんの姿が印象的でした。(佐藤さん)



在学中、私がバンドをやっていた頃にくらべ、レベルもバンド数も増えていましたね。でもステージの位置は前の場所の方が良かったですね。まだまだ新しい学校です。これからもっといい学園祭になってほしいです。(二期卒業生 松山さん)



しとしとと降り続いた雨も夕方には上がり、後夜祭は歓声の中特設ステージで行われました。

# 委員会報告

## 紀要委員会

第七回紀要委員会を十月十七日（火）に開催いたしました。今回は論文原稿の書式について記述いたします。昔は原稿といえは四百字詰めと定まっておりましたが、近年はワープロの普及でありますが、投稿書原稿は姿を消してしまいがちで、原稿にA四判四百字詰めとあるのに、二十字×二十行の印字出力を用紙一杯に暮盤目状に広がった原稿を見ることがあります。これは文字間隔が大きくて非常に読み難いものです。査読者からすると、文字間隔は詰め、行間が空いている書式の方が読み易く、修正やコメントの記入余白もあって優れていると思います。論文執筆の際は原稿の書式についても配慮ください。

(野原功全)

## 教務委員会

平成十三年度からの衛星通信による遠隔授業を実施

四年生を除く学生諸君には、すでに説明会がもたれたので周知のことと思いますが、本学では十三年度前期授業からスカイパーフェクトTV医療福祉チャネル774を利用し、衛星通信による授業を開始します。この方法による授業を行うことにより、科目選択の幅が広がることになり、学生の最大のメリットになると思っております。また医療福祉チャネル774の番組が視聴できることもメリットの一つになります。本学学生全員が一つの授業を視聴し、その講義内容と共通の話題を聞き、興味深いこととします。

(杉原素子)

## 国際部・国際交流委員会

- 一、平成十二年度海外研修・ボランティア活動参加学生の反省会が九月二十五日、全学生向け報告会がE-10一教室で十月二日に開催されました。
- 二、第二回留学生懇談会を十月五日、レストランで開催し、留学生とホストファミリー、交流委員、教員等が和やかに歓談しました。
- 三、千保一夫大田原市長と留学生の懇談会が、九月二十七日に「ふれあいの丘」にて開催され、意見や要望を聞いていただき、楽しく交流する機会を得ました。

(長谷川豊・田中美子)

## 広報委員会

I.U.H.W.が出来上がるまで、月一回の委員会です。前号の反省と次の計画を討議します。毎号載せる決まりもはじめ、特集のテーマを決め担当委員が大体の編集方針を提案し、討議します。原稿依頼をしないと編集、印刷に間に合いませんので、原稿も無集まると情報メデイア室が作業できません。委員もメデイア室に入り浸ります。

写真撮影はメデイア室が撮影し、突発的に途中でせよ載せたい記事が出た時は、委員長、担当委員、メデイア室の判断で掲載するかどう色を決めます。表紙の写真を決める校正、これが意外に時間を取ります。誤字当字の類は意図的か不明か、せいで直すわけにはいきません。遅くとも発行日の十日前には印刷に出して、ほとと息する間もなく次の号の計画を始めます。このように手作業の広報施設上の皆様の協力のおかげで、感謝申し上げます。(宮尾洋子)

# お知らせ

## 図書館だより

### 初代館長 菅先生ご退職

開学以前から本学図書館の設立に参画され、初代図書館長として図書館の基礎を築かれた菅信先生が、10月をもってご退職なさいました。高い専門知識と使命感をもって、長年図書館の運営にあたられたことに深く感謝申し上げます。ちょうど入れ替わりに若い新人1名を迎え、関係者一同新たな気持ちで頑張るつもりであります。

不十分な点も多いと思いますが、図書館に対するご意見・ご要望があればどしどしお寄せ下さい。出来る限りの改善を図りたいと思っています。(飯沼一浩)

## 大学来訪者 9～11月来訪者

9月28日	サンデー毎日
10月4日	福島県立清陵情報高校父母と教師の会
11日	栃木県立上三川高校PTA
25日	浙江省老齡委員会代表团
11月16日	栃木県立佐野女子高校PTA
22日	栃木県総合教育センター

## 新山王病院竣工

この度、山王病院は現在の場所を移転・新築し、去る11月20日(月)から開業されております。開業直前の11月18日(土)には、病院・大学関係者の他、各界から著名人をお招きし、ホテルニューオータニにて盛大に竣工記念祝賀会も開催されました。ここに、新山王病院の概要をご紹介します。



・事業主体	医療法人財団 順和会
・診療科目等	一般病院 75床 診療科目 内科・外科・整形外科・小児科・産婦人科 ・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・眼科・歯科 ・リハビリテーション(不妊治療)
・土地	3,184,67 (約1000坪)
・建物	鉄筋コンクリート造(地下2階・地上7階)
・延床面積	15,290,50 (約4600坪)
・住所	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-35 TEL: 03-3402-3151 FAX: 03-3404-3652 E-mail: sannoclc@sannoclc.or.jp URL: http://www.sannoclc.or.jp/

## 入試事務室より

### 大学院博士課程および新専攻開設のお知らせ

本学の大学院は現在、医療福祉学研究科保健医療学専攻(修士課程)のみですが、平成13年4月に新たに保健医療学専攻(博士課程)および、医療福祉学部の大学院として医療福祉経営専攻(修士課程)の設置を目指して、文部省に申請中です。

これにより学部から大学院まで、保健、医療、福祉の総合的な教育・研究体制が出来上がることとなります。より高度な知識の修得や、研究を目指す方がいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。なお、既設の保健医療学専攻(修士課程)の入試は、平成13年1月13日(土)に実施されます。詳しい問い合わせは入試事務室、電話0287-24-3200までどうぞ。

## 学生課から

### 学生相談室について

学生相談室が開設されて早4ヶ月が過ぎました。特に後期にはいって多数の相談をいただいています。今後もよろず相談的なものも含めて種々の相談に対応しますので、学生相談室を活用してください。開室日は月・水・金の10～17時(13～14時昼休み)です。

### 駐車場について

本号発行の頃には運用が始まっている予定ですが、教職員用駐車場入り口にはゲートが、学生用駐車場入り口には管理人ボックスが置かれます。従って、構内はまず教職員と学生の利用区域は別であり、利用許可を得てステッカーを貼付している車だけが利用可能です。ルールを厳守して利用してください。

## 同窓会「マロニエ会」ご入会案内

本会は、同窓生相互及び大学、学科との啓発・親睦を図り、併せて国際医療福祉大学の発展に寄与していくことを目的としております。

卒業生、在学生の皆様には本会の趣旨をご理解いただき、入会手続きをお進め下さいますようお願い申し上げます。

### 《ご入会のお申込み》

入会をご希望される方は、下記までご連絡下さい。本会専用振込用紙(郵便局、銀行)をお送りいたします。

また、大学及び同窓会事務局に登録されている現住所等に変更がある場合も同様にご連絡下さい。

### 「マロニエ会」連絡先

国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」事務局〔L棟学生課内〕  
TEL: 0287-24-3003  
FAX: 0287-24-3140  
e-mail: office@maronie.uhw.ac.jp

# TAO 通信・放送機構 那須遠隔リハビリサーチセンター プロジェクト紹介

皆さんは学内から中国にリハビリテーション医療教育放送が行われていたことをご存じでしょうか？  
本プロジェクトは平成10年に栃木県大田原市の国際医療福祉大学と学内に設置された通信・放送機構 那須遠隔リハビリサーチセンターの協働のもとに発足しました。

以来、平成12年度までに中国北京市の中国リハビリテーション研究センターとの間で、衛星通信を利用したリハビリテーション医療分野における、人材育成のための遠隔教育に関する共同研究を行ってきました。

以下にプロジェクトの沿革と平成10年8月から平成12年までに実施した全16回にわたる遠隔リハビリテーション医療教育実験概要を紹介いたします。

## プロジェクト沿革

平成8年度～9年度

プロジェクト準備期間

(中国との調印式、研究機材設置)

10年4月 通信・放送機構 那須遠隔リハビリサーチセンター研究員、研究フェローの委嘱

作業療法学科長 杉原教授をリーダーとして、「アジア地域における衛星を利用した遠隔リハビリテーションシステムに関する研究開発」プロジェクトが組織される。中国リハビリテーション研究センターとのリハビリテーション医療分野の効果的な遠隔教育システムの共同研究が始まる。

学内研究プロジェクト「遠隔リハビリテーション医療教育システム構築プロジェクト」

大学内においても学内研究プロジェクトが組織され、遠隔教育における効果的な講義実行環境、教育プログラムの研究が始まる。

10年6月15日

那須遠隔リハビリサーチセンター 開所式

8月

中国との遠隔リハビリテーション医療教育実験開始

11月

日本側第1回 金場(放射)  
日本側第2回 谷口(作業)  
第1回日中合同会議  
(中国リハビリテーション研究センターにて)

12月

日本側第3回 濱口(作業)

11年2月

日本側第4回 齋藤(理学)

3月

日本側第5回 杉原(作業)

4月

第2回日中合同会議 日本にて

6月

日本側第6回 藤沢(理学)

7月

日本側第7回 城間(言語)

8月

日本側第8回 金場(放射)

10月

中国側第1回 許(中医学リハビリ科)

第3回日中合同会議 中国にて

12月

中国側第2回 胡(作業)

12年1月

日本側第9回 杉原、福田(作業)

3月

中国側第3回 鄭(脊髄損傷早期リハビリ科)

4月

日本側第10回 城間、藤田(言語)

第4回日中合同会議 日本にて

6月

中国側第4回 関(脊髄損傷後期リハビリ科)

7月

日本側第11回 齋藤(理学)

9月

中国側第5回 李(言語)

遠隔リハビリテーション医療教育実験終了

12月

第5回日中合同会議(予定)

13年3月

「アジア地域における衛星を利用した遠隔リハビリテーションシステムに関する研究開発」プロジェクト終了。

通信・放送機構

那須遠隔リハビリサーチセンター 閉所

## 放送内容の紹介

### 日本側全十一回放送について

今までに実施した日本側の放送内容は以下のようになります。

【第一回】日本から中国へ向けて、「日本における医療画像の現況」をテーマに、最新の放射線医療機器の撮影方法などを紹介。活発な討議が行われました。

【第二回】「脳性麻痺の座位保持装置」をテーマに重度の脳性麻痺児に対する座位保持装置の必要性とその構造について放送しました。

【第三回】「脊髄損傷のリハビリテーション」というテーマで、脊髄損傷患者が出演し、日常生活の問題点や考え方を日中間で意見交換しました。

【第四回】「脳卒中片麻痺患者の運動療法」をテーマにリハビリテーション医療の実技・実演を中心に理学療法士が当日はじめて会った片麻痺者をその場で評価・治療するという形式で放送しました。

【第五回】「リハビリテーション医療とチームワーク」をテーマにチーム医療における様々な問題点とその解決方法について実際の病院における症例検討会の例を用いて放送しました。



第5回放送では症例検討会をシミュレーションしました。

【第六回】「下腿切断の理学療法」をテーマに日本での切断の理学療法や最新の義足などに多くの関心が見られました。

【第七回】「言語聴覚障害におけるコミュニケーション機器」をテーマに人工内耳によって聴覚障害を治療した子どもが出演し、治療後の経過や症状の改善などを、実演を中心に放送しました。

【第八回】「救急放射線医学」というテーマで「IVR」によって診断と治療をかねる、最新の放射線技術を放送しました。

平成十二年からの放送は衛星通信の双方向性を活かしてリアルタイムで交互に評価・治療するという形式がとられました。

【第九回】「軽度発達障害を評価する一つの方法をテーマに日本から中国へ軽度発達障害の評価方法を指導し、それを中国側にて実演し、その実用性について実施しました。

【第十回】「高次脳機能障害・記憶障害」をテーマに「軽度発達障害の評価」と同様に、日中双方に患者をおき、交互に評価を進め、具体的な評価方法を中国側で指導する形式を実施しました。

【第十一回】日本側最後の放送は、「神経系のモビライゼーション」というテーマでした。日中双方に患者と評価者をおき、交互に治療手技の実演を行い指導するという方法で実施しました。

以上が全十一回の放送内容です。いずれの放送時間ぎりぎりまで質疑応答がされるなど積極的な交流がありました。

### 中国側全五回放送について

平成十一年十月には、中国から日本に対する初めての送信が行われました。中国側からの放送は全五回で以下のように行われました。

【第一回】「片麻痺の鍼灸治療」で中国医学特有の「針灸」をテーマにツボの説明や片麻痺患者に対する針灸の効果などが放送されました。

【第二回】「脳性麻痺のリハビリ治療」をテーマに脳性麻痺児を対象として、症例の紹介やリハビリ訓練の様子をプレゼンテーション画像やVTRを中心に放送されました。

【第三回】「脊髄損傷の前期リハビリテーション」をテーマに実際に中国リハビリテーション研究センターの脊髄損傷早期リハビリ科で行われている訓練の様子が放送されました。

【第四回】「脊髄損傷の後期リハビリテーション」をテーマに脊髄損傷における回復期のリハビリテーションについて脊髄損傷後期リハビリ科の映像を中心に放送されました。

【第五回】「成人失語症の評価と治療」をテーマに成人失語症の評価と訓練方法について、具体的な症例紹介と、治療技術の紹介を行いました。

放送後半では日本語と中国語での言語の違による評価方法の特徴がよく現れた放送になりました。

以上全五回の放送が行われました。いずれも中国の医療の現状がよくわかる放送となりました。



中国側第1回放送「片麻痺の針灸治療」の一コマ

以上がTAOの実験放送の内容紹介です。  
次のページではTAOに関わった方々の詳しいインタビューが掲載してあります。実験の詳細や苦労話など、是非お読みください。

# プロジェクトメンバーに聞く

プロジェクトの説明がありましたTAO「通信放送機構」のインタビューしました。

平成12年10月30日収録  
(聞き手 広報委員長 宮尾洋子)



那須遠隔リハビリリサーチセンターセンター長  
放射線・情報科学科 教授

井原 廣一



プロジェクトリーダー  
作業療法学科 学科長

杉原 素子

井原：そうですね。アンテナの電波の届くところであればできますが、それは各国のプロジェクトの説明がありましたTAO「通信放送機構」のインタビューしました。

井原：それはパラボラアンテナと聞いて、太平洋の赤道上の高さ約三万六千キロメートルのところにあります。人工衛星に焦点をあわせておきます。その衛星に信号を送りまして、そこからアジア地域に対して放送電波を出していきます。逆にアジア地域からも同じように、アンテナで人工衛星に信号を送り、日本でもその信号を受けられるということになっているわけです。そうすると地域にかかわらずどこからでも日本へ送ることができるのですか？

杉原：中国側には非常に積極的にこのプロジェクトに協力していただきました。こちらからの一方的な遠隔教育というのではなく、中国側からも中国医学に関する情報を提供してもらうというところから始めました。中国側は、こちらからの

井原：これは日本の民間会社で持っているものです。時間借りして使用料などを払って使わせてもらっています。田辺さん、さらに付け加える事がありますか？

田辺：その衛星ですが、皆さんに分かりやすいように言いますと、Sky Perfect TV!とか日本のCS放送で使っている衛星と同じものを使っております。JCSATという衛星です。SATはサテライトの意です。

井原：JCSATというのはいろいろなところで同時に使えるものなのでしょうか？

井原：技術的なことを教えてください。

井原：同時に使えます。使用者によって周波数が違いますので、同時に使っても混線しないということです。逆にいいますと他のところに入ると直ちにペナルティーがつけられてくることになりません。同時に使えるけれども、他所に妨害を与えないような方策を取らなければなりません。

井原：実はこのプロジェクトの工学的意味での研究テーマを設定するのが非常に困難でした。といいますのは、医療の遠隔教育は既に行われていますし、医療以外にも放送大学など、先に進んでいるもので実用化されているものは多いんです。工学的には、すでに確立した

杉原：学ぶことは多くありました。例えば中国からの送信で、脳性麻痺や脳血管障害などの治療アプローチとして鍼治療を行い、一時的なことでありますが、著しく麻痺が軽減されたのを画像を通して見るのが出来ました。日本もこれらの療法に関心が移ってきていることもありますし、そういう意味で現状がわかり勉強になりました。

井原：工学技術的にはどうですか？

杉原：実はこのプロジェクトの工学的意味での研究テーマを設定するのが非常に困難でした。といいますのは、医療の遠隔教育は既に行われていますし、医療以外にも放送大学など、先に進んでいるもので実用化されているものは多いんです。工学的には、すでに確立した

杉原：本日は、通信・放送機構那須遠隔リハビリリサーチセンター、通称TAOと申しておりますが、TAOの実験放送が終わったところで、関連の皆様においでいただきたいです。プロジェクトリーダーの杉原素子先生、リサーチセンター長の井原廣一先生、研究員の田辺啓二さん、IUHW国際部から通訳として活躍された陳霞芬さんの四人の方にいろいろとお伺いしたいと思えます。

井原：誰でもいいわけではありませぬ。電波というのは一つの資源ということになっていきますので、国の認可がないと使えません。それから資格をもっている人が操作しなければいけないということになっていきます。

杉原：この衛星はどこのものですか？

井原：これは日本の民間会社で持っているものです。時間借りして使用料などを払って使わせてもらっています。田辺さん、さらに付け加える事がありますか？

田辺：その衛星ですが、皆さんに分かりやすいように言いますと、Sky Perfect TV!とか日本のCS放送で使っている衛星と同じものを使っております。JCSATという衛星です。SATはサテライトの意です。

陳：過去約二年の間にこちらからの送信が一回、中国からの受信が五回、計十六回の遠隔リハビリリサーチセンター医療教育実験をなさったわけですが、中国の伝統的医療からどんなことが学べましたか？

杉原：学ぶことは多くありました。例えば中国からの送信で、脳性麻痺や脳血管障害などの治療アプローチとして鍼治療を行い、一時的なことでありますが、著しく麻痺が軽減されたのを画像を通して見るのが出来ました。日本もこれらの療法に関心が移ってきていることもありますし、そういう意味で現状がわかり勉強になりました。

# インタビューシリーズ TAOプロジェクト

今回のインタビューは前ページにプロジェクトメンバーに座談会形式でお話を伺



那須遠隔リハビリリサーチセンター 研究員

田辺啓二



国際医療福祉大学 国際部

陳霞芬

技術・設備を使って研究をやるとい  
のは、そこに何を新しいこととして考  
えるかが非常に難しいです。杉原先  
生のご指導をいただきまして、動画を  
いかに安く効率よく送るかというこ  
ろに焦点を当て、研究テーマを見つ  
つたんです。そのテーマを工学的に説明  
することが大変難しかったですね。そ  
れが設定されてしまえば、田辺さんも  
経験を利用して研究テーマを追及する  
ことができますし。

井原：動画を送信衛星を使って送るとい  
うのは初めてなんですか？

杉原：このユニークさは井原先生もおっし  
やられたように、どこの筋肉かとかど  
このツボか、あるいは震えがあるかとか  
いるんな症状を見るためには、ある程  
度の繊細な画質がないと駄目だろうと  
いう画像的な問題、これが現実的に使  
えるかというのが大きな研究だったと  
思っています。それが今まで行われた  
ことがありませんでした。これまでは  
教員がじかに現場に行って教えていた  
ということが、こういった通信衛星を  
介してもできるという有用性を実験し  
たということですね。

井原：設備が悪かった関係もありまして、性  
能がこちらから送るものよりも、かな  
り落ちていたようですね。

田辺：実際には専門の工学的技術者とい  
うのはありません。リハビリテーショ  
ンセンターに関連機関の出版局があり  
まして、その技術者がビデオ作成や、カ  
メラ撮影をしたりといったAV機器の  
操作に関するのをやっています。

井原：中国側から来る画像はどうだったん  
ですか？

杉原：他に専門家はおりません。中  
国のリハビリテー  
ションセンターから一人派遣して  
もらって、その人に内容を勉強して  
もらって、色々な調査を手伝って  
もらっていました。



井原：ただ二ヶ月ほど、中国のリハビリ  
テーションセンターから一人派遣して  
もらって、その人に内容を勉強して  
もらって、色々な調査を手伝って  
もらっていました。

井原：何か失敗とか、もっとこのように  
すれば良かったとか、ご披露いただけ  
る裏話がありますか？

田辺：ええ？電波って雨に弱いんです  
か。衛星通信には、自然環境に  
対する電波の減衰があります。二年前の八月で  
した、那須地区が大雨だったときに第  
一回の放送で、その雨による減衰で電  
波が送れずストップしたことや、雷で  
停電になってしまっただけで機材が使  
えなくなりました。今年九月の最後  
の通信の雨も雨でした。那須地区は  
梅雨時から九月くらいにかけて夕立  
が多くて、ちよど夕立の時間と私  
たちの放送時刻が重なってしま  
いました。この点は今後考慮して放  
送時刻を考える必要がありますね。

井原：時期尚早かもしれませんが、この一連の  
実験をどのように評価なさいますか？

杉原：当初は、番組作りにはこだわりましたが、  
徐々に研究内容をコストと有用性に焦  
点を当て、その結果、ある程度のリハ  
ビリテーション医療技術は伝達できる  
ということが分かりましたので、実用  
化に向けて良い実験ができたと思  
っています。また、このプロジェクトは、本  
学で初めてのinterdisciplinaryの取組  
みであり、そのことも大きな意味が  
あったと思っています。

井原：中国側ではどのように受け止めて  
いるのでしょうか？

杉原：このプロジェクトは、平成一  
二年度で終わります。終了すれば、今  
大学にあるアンテナや研究機材は全  
て撤去することになります。大学  
として、このような実績を  
引き継げるプロジェクトはない  
かと、現在検討しているという段  
階です。

田辺：来年三月プロジェクト終了と同時に  
田辺さんの任期が終了するよう  
ですが、何かコメントなどあり  
ますか？

田辺：私は今まで企業にいましたので、  
大学という違った環境に  
来たことは、さしめて、学  
生さんと話しをしたり、さら  
にこのような一流の専門の方  
々とお話ができる、色々な  
お考えを聞けたということが  
貴重で、大変感謝して  
おります。このプロジェクト  
もいろいろな職種の方々が  
参加してやってきたわけ  
ですが、ここにいらっしゃる  
先生方、このすばらしい環  
境を十分に利用し、周  
りと連携して、今後も  
他のプロジェクトなり  
他の事業に発展させて  
いっていただきたいと思  
います。

井原：田辺さんにはこちらにいら  
っしゃる間に、仕事のほかに  
も楽しい出会いがあった  
と伺っています。おめで  
たうございました。

# 大学院の「いま」

国際医療福祉大学に大学院が設置されて二年目になりました。大学院ということばは聞いたことがあっても、実際に大学院生はどんな勉強・研究をしているのか、どんなカリキュラムなのか等々、分からないことも多いと思います。そこで、大学院医療福祉学専攻主任の笹沼澄子先生と、四名の大学院生の方にインタビューをしました。大学院の「いま」をお伝えします。



大学院 保健医療学専攻主任  
笹沼澄子先生

**：大学院の経緯を教えてください**  
国際医療福祉大学は、二十一世紀社会の少子・高齢化、グローバル化など、社会構造の著しい変革に対応するため、保健医療福祉の優れた専門職を育成することを目的に創設されました。共に生きる社会の建設を大学の基本理念として掲げ、保健学部と五学科と医療福祉学部の二学科が相互に連携・融合し、幅広い視野と見識をもつ人材の育成を目指していることはご存知の通りです。

**：大学院とはどんなところですか**  
平成十一年にスタートした医療福祉学専攻「保健医療学専攻」(修士課程)を中心に話ししましょう。この専攻は看護学、理学療法、作業療法、言語聴覚障害学、放射線・情報科学の五分野で構成されていますが、五分野の一つの専攻を構成することで、院生たちは分野を超えて研究・臨床・学びの体験を分かち合い、分野間の連携・融合・相乗効果などを具体的に体験する機会が確実に増えていると思います。

**：大学院生はどのくらいいるのですか**  
設備面はどうなっていますか  
現在の在籍数は一年生と二年生を合わせて七十七名です。その過半数が「社会人」(各専門領域での職能人)であり、臨床の現場から生まれる研究テーマを既に持ち、職能人としての資質の向上を真剣に目指す人が少なくありません。海外からの留学生は、現在中国から二名きています。今後はさらに増えていくのではないのでしょうか。

**：設備面はどのくらいいいのですか**  
設備面ですが、この春完成した棟には、基礎医学研究施設、理学療法・作業療法実験室(二階)などと共に院生研究室(三階)があり、机、パソコン、ロッカールームなどが備わっています。電話回線を使った九州の院生向けの(双方向テレビ会議システムによる)遠隔授業も今年度から始まりました。来年度からは、対象地域がさらに広がるはず。

**：大学院の将来の展望についてお聞きください**  
近い将来、保健医療福祉の分野における修士レベルの教育が急速に一般化するのではないかとみています。学部での四年間の教育では、各専門領域での必要な基本的知識・技術を学ぶことだけで精一杯で、日進月歩する新知見をどしどし導入して臨床の質のレベル

大学院は、このような大学の基本理念と特色を踏まえ、各職能のさらなる高度化・資質の向上、ひいては保健医療福祉領域で指導的役割を果たしうる人材(研究者、教育者、高度専門職)を育成する必要があるという時代の要請にこたえて、創設されたわけです。わが国におけるコメディカルの研究教育レベルは、もともと欧米諸国のそれに比べて遅れをとっていたことに加えて、関連諸領域における知識・技術の進展が最近ますます加速しているという現実を直視すると、大学院での人材育成は待ったなしの重要課題だと思います。

大学院が学部と大きく異なる点は、院生の一人ひとりが二年間に何を達成すべきかについての明確な目的意識を持ち、自主的・主体的に行動しなければならぬことです。例えば、入学するとまず、授業科目の中から自分の専攻すべき専門科目および指導教員を選びます。通常、自分が専攻すると決めた専門科目を担当する教授が指導教員となり、この教員のアドバイザーに従って授業科目を選択・履修し、研究論文作成の指導を受ける、ということになります。

授業科目は、共通科目十五科目、専門科目十二科目×三(特論、演習、特別研究)から構成されていて、この中から三十単位を選んで履修する必要があります。特別研究では、修士論文を作成するための方法を学ぶのですが、このプロセスを経ることを通して、論理的思考、科学的方法論など各専門分野のレベルアップに役立つ幅広い資質を磨くことができます。

**：詳しいお話がありました**  
保健医療学専攻(修士課程)、医療福祉経営専攻(修士課程)については、四ページの「入試事務室より」をご覧ください。



5階建ての大学院棟。各種研究室が備わっています。

参考：大学・大学院の課程(一般的なもの)  
大学、学部四年間(卒業すると学士の学位取得)  
大学院、修士課程二年間(修了すると、修士の学位取得)  
大学院、博士課程三年間(修了すると、博士の学位取得)



# 院生に聞く ～大学院についていろいろと聞きました～



服部 律子さん

医療福祉学研究科  
保健医療学専攻  
言語聴覚障害学分野  
修士課程 1年

：どんなきつかけでこの大学院に入  
したのですか

言語聴覚障害学科の大石敬子教授を以前から存じ上げており、小児の言語障害領域の臨床家として、また学習障害の研究者として尊敬していました。先生の指導のもとで、臨床家の視点を大切にした研究論文を書きたいと考え入学しました。現在は外来診療、重症心身障害児(者)通園・入所部門を持つ療育センターで言語聴覚士として勤務しています。卒業後20年近くなるため、再度言語聴覚士としての知識や技術をブラッシュアップしたいというのも入学動機のひとつです。

：大学院ではどんな研究をしているのですか

大きなテーマとしては、「施設に生活している重症心身障害者の方々へのコミュニケーション援助」です。いかにSTが専門的に関わることによっていいコミュニケーション環境を作



横尾 正博さん

医療福祉学研究科保健  
医療学専攻  
理学療法学分野  
修士課程 1年

：どんなきつかけでこの大学院に入  
したのですか

本大学院進学のきつかけは、教育法が変わり専門学校卒でも大学院に進める環境になった点が大きいです。また、サテライトの場合、通学にかかる時間が短縮できる利点も大きいです。

：大学院ではどんな研究をしているのですか

現在のテーマは、「PNFの効果に関すること」で、特に治療の効果判定に焦点をあてた研究を考えています。将来は、PTとして臨床・研究・教育の三本柱をバランスよくとっていきたいと考えています。

：通信での授業の利点と欠点は何ですか

サテライト形式での学習の大きな利点は、(通信技術の進歩により)本校に通わなくても学習できる点かと思えます。一方欠点はモニターでは本校の臨場感が伝わらないことや講義後の質問・雑談を交えた情報を得られない点があるかと思えます。

：仕事との両立は

現在、仕事との両立を厳しいながら続けております。両立が出来るひとつの要因は、時間休が取れ、それを講義時間にあてられるという、職場の理解があげられると思えます。

れるかを考えたいですが、もう少し研究テーマを絞らなければならぬと思っています。重症心身障害者に対して、STが密に関わるといふことはまだまだ未熟な領域ですが、正しく評価をして適切な関わりをすることで、本人達が持っている能力を引き出すことができるか、そしてそれを可能にする環境をどう作るか、ということが大きなテーマです。時々、なす療育園にも伺っています。

：将来はどのような分野で仕事をしたいのですか

現在休職中なので、来年は職場に戻ります。職場に戻っても、研究へのスタンスは絶やせずに仕事をしたいです。

：大学院に思うことは何ですか

メリットは、共通科目の中で、他の専門職の方々(PT, OT, NS等)と一緒に学ぶ機会があり、違う考え方でひとつのことを議論することが非常に勉強になります。大学院への要望は、ノートパソコンが院生に一人ずつ欲しいし、落ち着いて勉強できる部屋・空間が欲しい(注)部屋が広すぎるそうです。

：仕事との両立については

仕事は休んで大田原に住んでいますので、勉強だけで暮らせるので楽しいです。来年は復職して、仕事をしながら修士論文を書くことになりそうです。



吐師 秀典さん

医療福祉学研究科  
保健医療学専攻  
看護学分野  
修士課程 2年

：大学院に入学したきつかけは  
国際医療福祉大学看護学科を卒業し、地域看護分野の研究をするためです。

：研究内容は何ですか

地域看護の分野を研究中。ホームレスの生き方と現段階で行われている援助の実態に関する研究です。

：今後については

博士課程に進んで、修士で研究したことを継続し、深めていきたいと考えています。



中野 直美さん

医療福祉学研究科  
保健医療学専攻  
言語聴覚障害学分野  
修士課程 1年

：どんなきつかけでこの大学院に入  
学したのですか

フランスで言語学を専攻していたときの研究テーマが笹沼先生と重なることが多く、一時帰国したときに、笹沼先生に相談ののっていただき、言語聴覚士の資格は持っていないのですが、先生がこちらの大学にいらつしやるといふことを聞いてこの大学院に入学しました。

：大学院ではどんな研究をしてい  
るのですか

私は、脳の中で単語の読みがどのように処理されているかに興味を持っていて、単語を読むときの脳の処理のモデルを考えてみたいと思っています。単語の認知研究は笹沼先生が、長年研究されてきたので、同じようなテーマで研究できればと思っています。それぞれ別の言語によって特徴的な部

ています。現在はボランティアとして東京のホームレスと関わっています。が、今後は仕事として大学院に通いながら接してゆくとつもりです。

：大学院のメリットは何ですか

他の研究分野をみる事ができるので、意識的に広がりがあります。また、研究など自分のやりたいことをやらせてくれます。

：他分野の講義も受けられるので、今  
後もいろいろなることを勉強したいと思  
っています。

：大学院に望むことは

自分がまだ一期生なので、文献やパソコンなどが十分にそろっていないので充実して欲しいです。

：仕事との両立は

現在非常勤で勤務しています。時間がなく、大変ですが・・・

：将来はどのような分野で仕事・研  
究をしたいと思っていますか

これまでやってきているのは理論的なことなので、臨床の場では患者さんがどうのように読んでいるのか、どのような言語の体系で話しているのか、というところに興味があります。いずれはSTの資格を持てれば良いなと思っています。

：大学院に思うことは何ですか

授業の中で、たとえば、嚥下障害の患者さんへの関わりについて、PTの方が困っているときにSTの人がアドバイスする。逆の場合もあります。私は、看護婦の免許を持っているので、子どもへの関わりを考えたいときに、看護の領域で思っていたところにSTの方々の関わりがあるなど、視野に広がりをもてます。

：大学院への要望としては、パソコン  
の数を増やして欲しい、文献を増やし  
て欲しい、などでしょうか。

：仕事との両立は

大学院生専門です。社会復帰ができるでしょうか、ちよっと心配です。(笑)

# 学科・センター便り

## 大学院

一年生の第一回研究報告会が、七月十九日大谷学長ご臨席の許に開催されました。入学後わずか二ヶ月目の報告会でしたが、既に研究テーマ、方法を相当に絞り込んだ報告が過半数を占めるという出来映えでした。出席された教員からも多くの的確なコメントを沢山頂き実りの多い報告会となりました。

棟三階の整備も着々と進んでいます。自習室には新たに五台のパソコンが設置され、ここを我が住処と定める院生が増えはじめています。

一年生の大方は、夏期休暇中に調査・実験データの収集を終え、いよいよ論文作成の最終ラウンドを迎えます。

(笹沼淳)

## 看護学科

四年生の看護実習、真つ最中

看護学科では、後期から各学年毎に実習プログラムが開始されました。四年生は、緊張と不安をかかえて就職・進学活動と並行しながら、地域看護実習、総合実習、助産実習(選択)に取り組んでいます。

宿泊しながら実習に臨む学生がいたり、実習グループメンバーが協力しあって一台の車に乗り合わせ遠方まで通う学生も多く、ハードな日々が続いています。

しかし実際に対象者と関り、健康レベルと日常生活とのつながりを理解し援助していく中で、学生達は多くのことを自ら発見する喜びを実感しているようです。

(郷間悦子)

## 理学療法学科

理学療法学科は秋甜(たけなわ)！

一年生による全生園などの見学実習も終わり、錦秋の裳裾が里山に届くころ、理学療法学科は一年生の企画準備による「球技大会・球技大会」の秋のフィールド実習と学科行事も大白押しです。併せて、三年生は「口頭試問千問(専門?)」、四年生は卒業研究の発表を目前に控えて追い込みの時期を迎えます。芋煮会では一年生が朝八時から普段作ることのないような七十人分の豚汁作成に挑戦です。二年生は企画と一年生の指導を行います。三、四年生は球技大会を楽しみ、豚汁とおにぎりで暫しリラックスメンにも耐えらるる体力と気力を養い、三年生は次に控えている毎週の口頭試問に、四年生は卒論に備えます。

(藤沢しげ子)

## 作業療法学科

臨床実習に向けて基礎学力を養うべし！

四年生が四週間の臨床実習「症例研究」を終えて大学院「実習後の反省点として口をそろえて言うことは『基礎学力不足でした』。四年生になってから、勉強を始めるのは当然遅いですが、二年三年の時期から、身につけておくべき基礎知識をしっかりと習得しておくことが大切です。臨床の現場では「付け焼き刃」の知識は通用しません。

(久保田清子)

## 言語聴覚障害学科

風花祭言語聴覚障害学科企画 大盛況！

風花祭に言語聴覚障害学科ではことばや聴こえについて検査機器・用具等の展示や「大声コンテスト」後出し負けジャンケン」等の企画を実施しました。二日間を通してことばから高齢の方まで幅広く大勢の方に来てもらうことが出来ました。

普段学んでいることば(ST(言語聴覚士))という仕事について参加して頂いた方々に知ってもらうことが出来、入試相談会に参加された高生からも分りやすいかよかったですとの感想も伺いました。また、準備や運営を通じて学生同士の結束が一層強まったのではないかと感じました。

(鳥野幹夫)

## 放射線・情報科学科

前号で夏の暑さを話したばかりでしたが、もう寒さの冬の到来です。学科では平成一三年度の時間割を作成中です。一学年から三学年までが新カリキュラムになります。カリキュラム検討委員会では学生の立場からみてさらに改善するところはないか検討中です。一〇月二八日(土)に大学祭と並行して委員のついで、学科別集会所で行なわれ、四〇名という多数の保護者の方々も参加されました。質疑応答の時間では卒業一学期生の野田忠明君が突然姿を見せ、紹介がたが質問を受けたもろいところ、保護者から次々に具体的な質問が続き、急に賑やかで活発な集会となりました。

(野原功全)

## 医療経営管理学科

医療経営管理学科では、一一月一五日(水)に三年生を主な対象として就職ガイダンスを開催しました。就職活動での諸注意、適性検査の実施、四年生の合格体験談など盛り沢山の内容となりました。今回は、特に先輩方のお話から皆さんが何かを発見してくれることを期待しています。皆さんの就職戦線はまもなくです！

さて、今年も残すところあと僅かとなりまして、四年生の皆さん、卒業論文の進捗状況は

いかがですか？来春から就職先が内定し、とにかく今はほっと一息つきたい人、まだ就職活動を頑張っている人などさまざまなお話も聞きます。しかし、卒業の締め切り日は皆さん等しく来年の一月一九日(金)です。晴れて卒業というその日まで、もうひとがんばりです！

(磯伸彦)

## 医療福祉学科

卒業へ向かって

医療福祉学科の卒業論文の提出締切が一一月一五日にありました。第一期生にあたる四年生達は、全員一〇月に入ると、卒業論文に生活が染まっていききました。関心とテーマ、研究方法など、学生によっても非常に多岐にわたっています。夏休みからノートパソコンを持ってきて黙々と作成した人、締切近くなってお尻に火がついて一気に書いた人などいろいろですが、四年間の勉強の集大成にして大学生活の中の(苦しい)思い出の一つになったと思います。

一二月二日には口頭試問の卒業審査会があります。それが終わると、一気に国家試験(社会福祉士と精神保健福祉士)の受験準備体制にシフトチェンジされるのです。もちろん就職活動も続けなくては。

ああ、卒業までの道は厳しい…。がんばれ、四年生！先輩達は先輩達を見習って(??)、早め早めに準備しましょうね。

(本多勇)

## 基礎医学研究センター

本学の生態系

生態系は生物学的要因と環境とからなりまします。開学当初は校内で蛇や雲雀の幼鳥が捕獲されたり、研究室の灯りに魅せられて飛込んだと思われた昆虫が早朝の廊下に掃いて捨てるほど見られたりしました。しかし種々の建築物が建ち上がり、広大な駐車場が完備され、教育・研究の場が整備されると共にその数は減少し今では全く見かけられなくなりました。

十年後には立派な並木になるだろうと期待される桜や銀杏もまた苗木の域を出ず本学の土壌環境は厳しいようです。多くの生命体の犠牲と引き換えに学び舎の環境は整ったのです。優秀な学生が巣立ち、再び教育の場に戻ってほしいものです。

(野首和人)

## 健康管理センター

風邪を引かないようにしましょう。

今年度の教職員の健康診断は一〇月末日までに全て終了致しました。九月二六日から一〇月二五日までの一ヶ月間にクリニックを受診した

学生・教職員の総数は二二五二名です。内訳は医科が学生六三三名、教職員一四七名で、歯科が学生四〇三名、教職員六九名となっております。一〇月に入って朝晩の温度が下がるようになって、風邪でクリニックを受診する学生がぐんと増えました。雨の中でクラブ活動をするような無理をせず、うがいを励行するなど、自己管理をしっかりしましょう。

(谷禮夫)

## 言語聴覚センターだより

九月二五日から後期の学内実習が言語聴覚センターにて始まりました。卒業を半年後に控えているせいもあって朝早くから夜遅くまでかいている人があつて、その意欲と成長ぶりには驚くべきものがある。

カンファレンス・ルームの窓の外、ひとときり冷気をまじらした風に、キャンパスに立つ木々の葉がなびいている。しかし、STへの夢をつぐむ彼らの唇から放たれることばのひとつびとつは熱を帯びている。

(西尾正輝)

## 語学教育センター Speech Program Success!

IUHW's Speech Program is a success! English teachers have been working hard, and Minamii-sensei and Dobbs-sensei have been working to show how our kind of Speech Program can benefit other universities in Japan as well as high schools and junior high schools. In October, they had a chance to share the Speech Program with other educators at the Language Education and Teacher's Conference, which was held at Akita Prefectural University. Minamii and Dobbs presented before-and-after videos, showing just how much our students have improved their pronunciation and public speaking skills as a result of our program. They also explained to these educators how to start and maintain such a program. After the presentation, Minamii-sensei and Dobbs-sensei were surrounded by anxious teachers, from all over Japan, wanting to know more about how to start a similar Speech Program at their schools. IUHW showed how well our students can give speeches. Akita was impressed!

(C.K.Dobbs)

## リレーエッセイ

これからやりたい事、やりたくない事。

作業療法学科 下田 信明



これからやりたい事。

(1) お仕事編

1) CVAの部位・範囲と神経学・リハ医学・OT(PT・ST)学の関連が平易に理解できる教育ソフトを作ること。(文字と2次元図だけで理解困難なのは、私だけ?) 2) CVAの部位・範囲と上肢・バランス・認知能力の関連を探ること。3) 本学科臨床教育の効果を探ること。4) 他教員の教育技法を盗むこと。5) 臨場に触れ、現場で役に立つ教員になること。6) 立花隆ゼミ「20歳のころ」のOT版を編集すること。7) 岩波新書で「作業療法学とは何だろうか」「物理学とは何だろうか」のもじり」という本を書くこと。8) 学生に職業観・家族観・障害者観・高齢者観などを問う調査を、50年間続け、社会観に世代間格差は本当にあるのかを探ること。

(2) プライベート編

1) 標準体重に戻すこと。2) PT学科2年望月氏の打席に立つこと。(軟球で) 3) ロック、R & B、ジャズなどの20世紀名盤を集めること。4) 科学史上重要な本を集めること。(例・「天球について」ガリオなど) 5) 旧ソ連・ウクライナの現状を自分の目で見ること。

これからやりたくない事。

・講義開始5分前に、資料の印刷が終わること。

(夢か現実か。理想か空想か妄想か幻想か。???)

次回執筆筆者：潮見泰蔵先生(理学療法学科)

## 私が感銘を受けた本(第8回)



書名：全国アホ・バカ分布考  
はるかなる言葉の旅路

著者名：松本 修

出版社：太田出版

紹介者：総合教育センター

江草浩幸

一見ふざけたタイトルだが中身は立派な方言論である。発端は関西のテレビ番組における、「アホ」という表現を使う地域と「バカ」を使う地域との境界を調べるという企画であり、著者は番組のプロデューサーである。視聴者からの情報や全国市町村へのアンケート調査の結果は西の「アホ」、東の「バカ」という常識を覆すものであり、その分布の謎が番組を越えて追求された。その方言論の内容も興味深い。「研究」は博士や教授だけのものではなく、好奇心と探求の情熱さえあれば誰にでもでき、テーマはいい所にあることを実感させてくれるのがうれしい。

今回ご紹介いただいた著書は、図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。是非ご愛読ください。(図書館長)

## 私の研究ノート

臨床の勘を客観的データに

作業療法学科 菅原 洋子

以前私が勤務していた病院の作業療法室には、作業療法士が開発したマルチスライダという訓練用があります。これは身体障害者の訓練で使用されているスケートボードという用具を改良したもので、肩関節や肘関節の関節角度維持や痙性の軽減を目的に自己訓練するための用具です。

ここ数年、この開発されたマルチスライダの臨床的効果を客観的に示したいと取り組んできました。従来使用されているスケートボードとは、板の裏面にキャスターが4つついていて、板の上部には前腕と手をのせてテーブルの上をぐるぐる動かすものです。それに対しマルチスライダは、腕を載せる板をスライドする棒の上に置いて安定させ、その棒がテーブルの端に取り付けられた軸に固定され、テーブル上を360度回転できるように

なっています。こんな説明ではどんなものか想像できませんよね。とにかくその病院では、麻痺して自力ではあまり腕を動かすことができなかった患者さんに対するプログラムの1つとして使っています。数年使っているうちにこれはスケートボードよりずっと効果が大きいと確信したのが、この研究の始まりでした。

この効果があるという確信は、運動の終止時にマルチスライダによってより大きく上肢が動くという現象でした。工学系の研究者に加わっていただいて、この現象を明らかにしようと、初年度はビデオによる画像解析でマルチスライダの位置変化をとらえ、それに電気角度計と筋電計の結果を加えて用具の特徴を総合的に解釈しました。その後マルチスライダに専用の電気角度計と距離測定計を設置し、画像から角度と距離を読みとる作業がなくなりました。ちょっとしたことで雑音が入ってしまう筋電計は新しい機種になりました。健康者を対象に9つの電氣的データがやっと信頼できるものになってきましたが、健康者の実験方法を障害者にはすんわり使えないという研究の厳しさを思い知らされている昨今です。

## 教員紹介

各学科・センターの教員をご紹介します。

所属・職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先 主要著書又は論文どちらか1点  
本校における担当科目 趣味

大内 章子(オオウチ アキコ)



看護学科・助手  
桐蔭横浜大学大学院工学研究科  
修士課程 制御システム工学専攻  
リハビリテーション看護  
横浜市老人リハビリテーション友愛病院  
(現在、横浜市脳血管医療センター)  
血液中の赤血球に対する超音波造影剤界面活性剤溶液の影響  
看護学 ドライブetc

大石 剛史(オオイシ タケシ)



医療福祉学科・助手  
1975年6月28日  
日本社会事業大学大学院社会福祉学専攻  
地域福祉論  
「福祉コミュニティの形成における主体形成の必要性と課題」(修士論文)  
テニス、ドライブ、映画

田中 裕美子(タナカ ユミコ)



言語聴覚障害学科・助教授 忘れました。  
コロラド大学  
小児言語障害およびバイリンガル教育  
コロラド大学  
Grammatical Comprehension in Japanese Preschoolers with Specific Language Impairment, presented at the ASHA convention, Washington, DC., 2000  
小児言語障害学 水彩画

## メディア室から

広報誌の編集を担当しておりますメディア室です。

広報誌も今回で35号を迎えることになりました。これも偏に広報委員の先生方、記事をお書きくださった方々、何より読者の皆様のお力に支えられての事と思います。

メディア室ではより充実した紙面づくりをしていこうと考えております。ご意見・ご感想などございましたらお気軽に下記の宛先まで。

〒324-8501 大田原市北金丸2600-1 国際医療福祉大学 メディア室

## I U H Wクイズ - 第22弾 - 当選者発表

立冬も過ぎて、暦の上ではもう冬ですね。さて、I U H Wクイズ第22弾の正解者は、残念ながらいませんでした(!)。少々難しかったでしょうか。I U H Wクイズ第22弾の賞品の旅行ギフト券は、次回繰り越しにします。

I U H Wクイズ第23弾もふるってご応募ください!

(解答)

問題	1	2	3	4	5	北海道	鹿児島県	長崎県	1	長崎県
1、海岸線の総延長が日本一の県はどこでしょう。	北海道	鹿児島県	長崎県	1	長崎県				2	千葉県
2、標高500m以上の山がない県はどこでしょう。	沖縄県	千葉県	大阪府	3	大和				4	100m位
3、日本の市町村の中で最も多い名前は何でしょう。	府中	朝日	大和	4	100m位				5	2つ
4、日本一小さい火山は標高何m位でしょう。	100m位	300m位	500m位							
5、JRのカタカナ駅名はいくつあるでしょう。	5つ	7つ	2つ							

## コラム ~ 勉学の志 ~

毎回様々な学生さんを紹介しているこのコーナーですが、今回は社会人入試で入学されボランティア活動に参加し、現在は国際医療福祉大学大学院の修士課程2年で作業療法学を専攻されている林由美子さんにお話を伺いました。



**林さんは国際医療福祉大学から国際医療福祉大学大学院へそのまま進まれたと言うことですが、こちらを選んだきっかけは何ですか？**

林... 自分の年齢等を考えまして、「臨床は年を重ねてもできるけれど、勉強のほうは若いうちがいい」という助言もあって大学院を決めました。

**話が後先になりましたが国際医療福祉大学へはどうして入学しようと思ったのですか？**

林... この大学へ興味を持ったきっかけなんです、本学の新聞広告をたまたま見たことです。他にも2つほど考えたのですが、社会人として長く仕事をしていましたので、そういった社会人卒の受験制度があるこの大学を受験することを決めました。

**さしつかえなければどのような仕事をしていたのか教えていただけますか？**

林... 短大を卒業して1年ぐらいいは空港でアルバイト的な仕事をしていました。その後9年間は和歌山県の田辺市役所に地方公務員として勤めていました。

**公務員からどうして作業療法士になろうと思ったのですか？そのきっかけは何ですか？**

林... いろいろな事が重なったのですが、市役所にいた時に福祉課に配属していました。その時にダウン症のお子さん達と接する機会があり、その純粋さに魅せられたことが一つです。ちょうどその時期に阪神大震災がありボランティアに行きたいという希望を出しましたが、女性では寝泊まりやトイレの問題があって来てもらっても困るというような返答がありました。その時「9年間公務員をしていても、何の役にも立たないものなのだ。」という無力さを感じました。身一つでどこへでも行って働ける資格を持っていれば、という思いがもう一つのきっかけです。

**ボランティアというお話が出ましたが、林さんは大学の時にボランティア活動を何かされていらっしゃいましたか？**

林... ここ数年は海外でボランティア活動をしています。第1回国際ボランティアはベトナムという事もあり、以前から興味があったベトナムへ行ってまず現地を見てみたいと思いました。

実際にはベトナムに行ってむこうで何ができたかわからないボランティアでしたが、作業療法をまだ勉強したてだったこともあり、チョウライ病院で理学療法士の先生にいろいろ教えてもらったという状況でした。1年目のボランティアでやっぱりベトナムだと感じ、その後も一年に一度ボランティアでベトナムに行っています。今年の9月にも行って来ました。この先もベトナムとは長いスパンで関わっていきたいと思っています。

**そうですか。今年もボランティアに行かれたのですか。でも大学に通うことやボランティア活動など何かとお金がかかるんじゃないのですか？**

林... ええ、でも自分が仕事していたときの貯金といるいるな奨学金で何とかやってきましたし、現在は作業療法士の資格を持っていますので非常勤的なアルバイトで家計簿を付けながら働いています。

**それは大変でしたね。現在大学院で学んでらっしゃいますが、大学院の印象はどうでしょうか？**

林... 大学生の頃とはとにかく資格を取らなければという思いがあったので、本当に作業療法の勉強に徹したと言うのがありました。大学院では一つの大きな部屋に5学科が入っていますので、他の学科の人たちと自分の論文のことで議論したり、意見交換ができていい2年間だったと思います。他の学科の専門的なところもわかりましたし、自分達の職種の見方の狭さも発見できましたので、本当に良かったと思います。

今回の特集記事にもある「大学院」その大学院で他学科の方々と関わりの中から新たな発見をしたというお話が印象的でした。

林さん、研究でお忙しい中取材にご協力いただきありがとうございました。

明日のリハビリテーションの担い手として、これからも研究にボランティアにがんばってください！



### 学内の風景から

大学の構内にいくつか小さな花壇があります。その花壇の手入れをしているのが『園芸部』です。

園芸部は大学が購入した花をきれいにレイアウトして植えています。

園芸部の榎本奈々さん(作業2年)は「皆さんがこの花壇を見て少しでも楽しんでくれたらいいなと思います。それと花がなくなって土だけの花壇に踏み込んでしまうのは花壇がかわいそうなので気をつけてください。」と話してくれました。

### 編集後記

20世紀も残すところ、あと1ヵ月。それぞれのミレニアムを過ごされたことでしょう。国際医療福祉大学では、2期の卒業生を全国に送り出し、大学院の博士課程開設、関連施設の拡大と更なる発展を続けています。その発展と共に歩んできたIUHW、今世紀最後のIUHWを皆様にお届けいたします。(石井恵美)

## IUHW クイズ - 第23弾 -

いよいよあと1か月足らずで、2001年 = 21世紀ですね。今回のクイズは2001年(21世紀)にまつわる「雑学チック」なクイズをいくつか・・・。

解答用紙に答えを記入したら、切り取って事務局窓口外側にあるメールボックスへ投入して下さい。正解者のなかから抽選で2名(！前回正解者がいなかったの)の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、締切は12月15日です。解答は次号ですが、もうそのときは21世紀ですね・・・(解答を21世紀が来る前に知りたい人は、12月18日からC棟1階広報委員会掲示板に掲示します)

### 問題

- 日本で最も早く21世紀の初日の出を見ることができるとはどこ？  
南鳥島 母島 富士山山頂 千葉県犬吠埼
- 世界で最も早く21世紀の初日の出を見ることができるとどこにある？  
南極大陸 キリバス諸島 ニューゼaland
- 2001年は平成13年ですね。さて、むかしの元号に直すと、正しいのはどれ？  
明治135年 大正90年 昭和75年
- 国連は、2001年を「国際年(国際年)」としました。さて、次のうちどれ？  
国際高齢者年 国際感謝年 国際エコツーリズム年 ボランティア国際年

解答用紙	学科 名前	学年
解答		
1		
2		
3		
4		